

特集 明治37年の運動会～謎の競技種目考～

明治37年の運動会プログラムと出場者リストが、『岡山朝日高等学校史—資料編Ⅱ 旧制中学運動会』（平成28年発行）に挟み込まれています。プログラムはなんと98番まであり、謎競技もたくさん。まずはこの本を書かれた後神泉先生（昭和59年卒）に、内容を簡単にまとめていただき、その一部をご紹介します。また、明治時代の運動会の写真がほとんどないことから、『烏城』の記事や当時の時勢から、謎競技を想像しました。当番学年（昭和48、49、58、平成5年卒）を含む会報委員達の想像力をお楽しみください。

■ 岡山中学における戦前期の大運動会（抜粋）

明治23年（1890）4月の大運動会には知事、市長をはじめ多くの観客がおしかけ、早くも市民の祭事的様相を示し始めていた。そもそも小学校における運動会の普及には、学校令制定を主導した森有礼文部大臣が果たした役割が大きいとされている。彼は、体操を教育課程に取り入れて日本人の体格・体力の改善を図ろうとした。その発表の場が運動会にあり、彼はその開催を促したのである。

一方、岡山中学の運動会は生徒の有志の団体である尚志会が会員のために行う運動イベントであり、あくまで会員が楽しむことを目的とした。5年級の会員（彼らは基本的に競技には参加しない）が企画・運営するのが習わしとなっており、当初、学校側が入り込む余地はなかった。ゆえに運動能力を競うよりも遊技的競技で楽しみ、自分たちが楽しむばかりでなく、観覧者もまた楽しませることで自身の満足度を高めようとした。運動会への参加を促すには賞状と賞品を用意するのが効果的である。ゆえに競技には賞品獲得競争的な傾向が強まっていった。しかし、チーム競技などを行うと賞品や賞状を多く用意しなくてはならないので、後年になってもリレーなどはまず行われなかった。また、賞品獲得にはなじまないから体操などもあまり行われなかった。

話を小学校の運動会に戻すが、その目的は体格・体力の向上にあったから、政府側は体操を重視した。学校側が賞品で児童にインセンティブを与えようとするのが盛んになるとこれを問題視し、団体で競わせてチームワークを醸成することを促した。このように運動会は教育政策の一環であったが、岡山中学のそれは対照的であった。

【全文と明治37年のプログラムはこちら→ <https://asahikou.com/directsite/meiji-undoukai/meiji-undoukai.html>】



競技順序19番・57番・74番・86番「大障害物競争」 明治の岡中に「SASUKE」発見？

2028年ロスオリンピックの近代競技の新種目として馬術に代わってSASUKEが登場します。名前からおわかりのように日本人考案の競技です。SASUKEとは、TBSの人気番組で、160か国にコンテンツが輸出されている「障害物レース」です。番組自体は1997年からスタートですが、このようなユニークな発想にはそれ以前になにかルーツがあるはずです。

大運動会の種目に大障害物競争があります。どのようなものか具体的な記事はありませんが、後の時代の大障害物競争として、「櫓上の梯子渡り」、「樽抜け競争」の写真がでています。わずか1日のためによくここまで大がかりな仕掛けを作りこんだと感心してしまいます。当時の生徒たちが、自分たちが楽しみ、ついでに観客を沸かせようと知恵を絞りに絞った姿が目に見えます。

SASUKEのオープニングは、池に浮かべた足場を走り抜けたり、池の上にセットした雲梯、吊り輪などを渡っていくのですが、失敗すると池にドボンという派手な見せ場があります。果たしてかの大障害物競争はお濠にもセットを作っていたのか？お濠ドボンはあったのか？



第三十回陸上大運動会「障害物競争」（大正6.11.3）

競技順序51番 豪華賞品争奪！ 3年級余興

3年級の余興は、2年級や4年級らの、当時開戦していた日露戦争の影響を受けた劇場型の余興とは毛色が異なり、長竿の先に洋傘・鞆・毛布などが吊るされ、竿に登ることができた者がそれらを賞品として手に入れられるといった趣向の催しだったようだ。